

2024.10.23 ~ 24

東京大学×舟入×長崎東

連携平和探究フィールドワーク



渡邊先生作成の被爆地電子マップ



先生方から探究フィードバック



SFプロトタイピングワークショップ

1日目

東京大学を訪問し、戦時中の白黒写真をカラー写真に変換するなど、情報技術と平和を掛け合わせた研究をしている渡邊英徳教授と研究室の方々にそれぞれの班の今まで取り組んできたことや、現状課題などをプレゼンし、色々なアドバイスをいただいた。全体を通して平和という大きな世界課題に取り組む中で、世界全体として取り組むのではなく、私たち第3世が、次生まれてくる第4世、5世にどう伝えていくか、自分のできることは何かと考えることが大切であることや、教育を考える上で子供に期待しすぎて思想を収縮させず、失敗した時のことまで考えることなど、探究に必要な姿勢を学ぶことができた。また、情報技術の専門家に学ぶからこそ、便利なツールを教えていただき、これからの探究の幅を広げることができた。

2日目

1日目に引き続き東京大学に訪問し、渡邊研究室の楊ケビンさんにSFプロトタイピングのワークショップを開いていただいた。SFプロトタイピングとは未来を想像することで、今何をすべきなのかがわかるというマーケティングなどの面で、実際に企業でも行われている手法である。今回のワークショップではAIが台頭する世界や食料問題など50年後の世界での社会問題について考え、それをテーマにchat GPTに物語を作らせることで登場人物の気持ちについて議論した。話を進める中で、自分の考えの方が正しいと思ってしまうと相手を受け入れられなくなって、争いにつながることに気づき自分では理解できないものの存在価値を見出すことが大切であることを学んだ。実際に自分ごととして問題を考えることで平和というものの定義の大きさや戦争や争いが起きる原因について具体例をもとに考えることができるという利点がSFプロトタイピングにはあると思った。